

一つ屋根の下末永く

共同建て替え 住宅が完成 12人困難乗り越え

灘区備後町

阪神・淡路大震災で被災し、単独での自宅再建が困難だった地権者四人と、公募で参加した近隣の住民八人による共同建て替え住宅「スクウェア六甲」が二十一日、神戸市灘区備後町に完成した。震災から四年余りを経て、ようやく家が取り戻した入居者らは

「チームワークがあったからこそ」と、感激の表情で完成式に臨んだ。

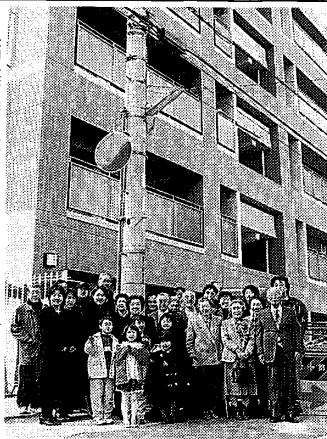
現地は、復興区画整理などの事業区域外の「白地地域」。敷地約二百六十平方メートルに、八階建ての住宅十一戸と店舗一戸を建設した。

同住宅は、事業前に入居

者を募ることで、間取りなどに入居者の意向を反映できるコーポラティブハウスにしたのが特徴。自宅が全壊した地権者が一昨年、新たな参加者をチラシで公募した。集まった計十二人で建設組合をつくり、それぞれに部屋数や内装を決め、昨年二月から工事を進めてきた。住宅市街地総合整備事業制度を活用し、公費助

成も受けた。

完成式では、建設組合の鶴谷治好理事長らが「皆さんのおかげで、完成にこぎつけた。同じ屋根の下で末永く、仲良く」と笑顔であいさつ。入居者には高齢者も多く、「互いに話し合いの手になれば」「電気に詳しいので修理は任せて」などと声を掛け合っている。



共同建て替え住宅の完成を喜ぶ入居者ら―神戸市灘区備後町三